

文化人類学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
文化人類学特論Ⅰ	博物館人類学	2	伊藤 敦規	集中(2学期)			1
文化人類学特論Ⅱ	ヨーロッパ人類学の現在	2	松前 もゆる	集中(1学期)			2
文化人類学特論Ⅲ	災害人類学	2	ボレー・ベンメレン・セバスチャン	2学期	金	3	3
文化人類学研究演習Ⅰ	文化人類学の視野と思考	2	川口 幸大	1学期	月	3	4
文化人類学研究演習Ⅱ	文化人類学の視野と思考	2	川口 幸大	2学期	月	3	5
文化人類学研究演習Ⅲ	Native American Literature	2	トニー・マガグナ	2学期	木	2	6
文化人類学調査実習Ⅰ	フィールドワークの理論と方法	2	沼崎 一郎	1学期	水	3、4	7
文化人類学調査実習Ⅱ	フィールドワークの理論と方法	2	沼崎 一郎	2学期	水	3、4	8
課題研究 (文化人類学)		4	沼崎 一郎 川口 幸大	通年	水	5	

科目名：文化人類学特論 I / Cultural Anthropology (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期集中

学期：集中（2学期）、**単位数：**2

担当教員：伊藤 敦規（非常勤講師）

講義コード：LM98831、**科目ナンバリング：**LHU-CUA601J、**使用言語：**日本語

1. 授業題目：

博物館人類学

2. Course Title (授業題目)：

Museum Anthropology

3. 授業の目的と概要：

世界の民族集団の文化や生活様式を伝えるために民族学博物館が作られてきた。スミソニアン協会の国立自然史博物館、アメリカ自然史博物館、大英博物館、オランダ国立民族学博物館、ロシアのクンストカメラ、日本の国立民族学博物館といった大規模な機関から、大学附属博物館や地域博物館までさまざまな形態がある。どの機関も創設から現在まで展示替えを繰り返し、博物館活動を改良してきた。本講義では、文化人類学における物質文化研究や民族学博物館の諸活動を俯瞰的かつ時系列的に理解すると共に、現代の博物館活動を行う上で重要な視点となっているソースコミュニティの人々との協働や民族誌資料のデジタル利用に際する著作権処理の問題といった最新の事例も学ぶ。国立民族学博物館が貸し出しているキットを用いて実際に民族誌資料に触れたり、キャプションの付され方などを学んだりすると共に、仙台市近郊の博物館を訪問し、民族誌・民俗資料の展示されている様子も実見する。こうした活動を通して、色々な展示実践を文化人類学的な視点に則って批判的に捉えられるような視点を養う。講義や演習の形式で授業を進めると共に、受講者には民族誌資料のサンプルを使用したモノや情報の収集と整理と展示を実践的に学ぶための課題を課す。

4. 学習の到達目標：

1. 博物館活動や民族誌資料に関する人類学的な理解を深める
2. 民族誌資料展示の理解の仕方を習得し、文化人類学的視点から批判的に捉えられるようにする
3. 資料展示のやり方を実践的に習得する

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに 講義内容と方法の説明
2. 文化人類学における物質文化研究
3. 博物館活動：モノの収集、整理、保存、保管、研究、展示、返還
4. 欧米の民族学博物館と民族誌展示
5. 日本の民族学博物館と民族誌展示
6. 博物館とソースコミュニティの人々との協働
7. 民族誌展示におけるデジタル機器利用
8. 民族誌資料の著作権処理と孤児著作物化の問題
9. 『民族誌資料展示会』開催の趣旨説明
10. 校外学習、展示会・展示場実見
11. 校外学習、展示会・展示場実見
12. 校外学習、展示会・展示場実見
13. 『民族誌資料展示会』制作
14. 『民族誌資料展示会』制作
15. 『民族誌資料展示会』講評

6. 成績評価方法：

出席、課題レポート、『民族誌資料展示会』制作作品ならびに講評への参加

7. 教科書および参考書：

『展示する人類学』（高倉浩樹編、昭和堂、2015）

『国立民族学博物館収蔵「ホビ製」木彫人形資料熟覧——ソースコミュニティと博物館資料との「再会」1』（伊藤敦規編、国立民族学博物館、2017）

8. 授業時間外学習：

『民族誌資料展示会』の制作に関して、講義時間中の完成が困難な場合は、授業時間外学習を行う。

9. その他：

校外学習、展示会・展示場実見の会場は仙台市内か近郊の機関を予定していますが、講義初日にお知らせします。移動費と入場料は自己負担とします。

『民族誌資料展示会』制作の回については、ノートPCやタブレット端末の利用を推奨する。

講義予定は、諸般の事情により変更することもありうる。

科目名：文化人類学特論Ⅱ／ Cultural Anthropology (Advanced Lecture) II

曜日・講時：前期集中

学期：集中（1学期）、 **単位数：**2

担当教員：松前 もゆる（非常勤講師）

講義コード：LM98832、 **科目ナンバリング：**LHU-CUA602J、 **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ヨーロッパ人類学の現在

2. Course Title（授業題目）：

Anthropology of Europe

3. 授業の目的と概要：

ヨーロッパをフィールドとする人類学的研究は、人類学においては後発の分野であるが、近年、日本においても、またヨーロッパ（あるいは欧米）においても、新たな研究が蓄積されつつある。本授業では、いわゆる西欧だけでなく東欧も視野に入れ、とくに体制転換と EU 拡大、移動・移住、共同性、ジェンダーといったテーマに注目しながら、ヨーロッパ人類学の最近の議論を概観したい。ヨーロッパ地域への人類学的アプローチの可能性について学ぶとともに、そこから人類学全体の議論につなげて理解を深めることが本授業の目的である。

4. 学習の到達目標：

1. ヨーロッパを対象とする人類学的研究について、基本的な知識を身につける。
2. ヨーロッパの人類学的研究を人類学全体の議論とつなげて考え、自分なりに検討できるようになる。
3. 人類学的アプローチの特徴を知り、現代ヨーロッパの諸課題・諸現象を考える視角のひとつについて理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ヨーロッパという地域と人類学的アプローチ
2. 地中海ヨーロッパの語られ方—家族、ジェンダーと「名誉と恥」
3. 家族・村落研究の古典を読む
4. 民族、国家、ナショナリズム
5. EU 統合とヨーロッパ・アイデンティティ
6. 体制転換の人類学
7. 体制転換とジェンダー—体制転換の人類学②
8. 移民から見たヨーロッパ
9. 難民の人類学
10. 国際労働移動とジェンダー
11. 仕事の人類学—ヨーロッパの事例から
12. ヨーロッパにおける移動と場所
13. 国境をこえる家族
14. EU 拡大とシティズンシップ
15. 新たな共同性を考える

6. 成績評価方法：

レポート 60%、参加状況 40%により評価する。

なお、参加状況は、授業内での発言や授業後のコメント提出状況を含めて判断する。

7. 教科書および参考書：

教材は授業中に配布する。

なお、以下の本を参考書としてあげておく。

石川真作・渋谷努・山本須美子（編）『周縁から照射する EU 社会』世界思想社、2012 年。

佐々木史郎・渡邊日日（編）『ポスト社会主義以後のスラヴ・ユーラシア世界』風響社。

8. 授業時間外学習：

これまでに履修した人類学関連の授業で学んだことと本授業の内容を照らし合わせ、参考書などにも目を通して、個々の考察を深めてほしい。

9. その他：

科目名：文化人類学特論Ⅲ／ Cultural Anthropology (Advanced Lecture) III

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：ボレー・ペンメレン・セバスチャン（兼務教員）

講義コード：LM25213, **科目ナンバリング：**LHU-CUA603J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

災害人類学

2. Course Title (授業題目)：

Anthropology of Disaster

3. 授業の目的と概要：

文化人類学における 21 世紀の幕開けは、ますます増え広がる「災害」と呼ばれる現象によって特徴付けられる。Disaster という言葉は、自然災害（地震、ハリケーン、津波、洪水、火山噴火）、人為的事故（戦争、テロ、飛行機の墜落、列車の脱線事故、原子力災害、自動車事故）、環境と健康危機（飢饉、疾病、汚染、熱波）など様々な現象を含んでいる。災害という概念と発展とを踏まえ、本講義では、災害の類型、リスク、脆弱性、レジリエンス、連帯、トラウマ、メモリといった災害の人類学に関する共通の問題とテーマのいくつかを紹介する。これらの概念を用いて、本講義では災害を理解し対処する方法について災害人類学者が貢献する方法の一部を提示することを試みる。そうすることで、災害にかんする自分自身の理解を深めるとともに、人類学的知識を応用することに関心を持つことを、本講義を通じて提供することを願う。

4. 学習の到達目標：

1. 災害問題について理解を深める。
2. 災害にかかわるさまざまな実践を知り、それを文化人類学の視点から批判的に捉える。
3. 受講生一人ひとりが災害問題に関してできることを具体的に考える。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- I. イントロダクション：現代世界における災害
- II. 人類学の視点から見た災害災害
- III. 災害に関する宗教団体の理論
- IV. 災害に関する自然科学の視点
- V. 映画スクリーンく 1: 災害の環境的と文化的の側面は何か
- VI. 災害時の社会的連絡
- VII. 災害における脆弱性
- VIII. 減災におけるレジリエンス
- IX. 被災者のコミュニティの強制変位
- X. 災害後の復興と社会正義
- XI. 災害における死と追悼のポリティクス
- XII. 博物館に災害の記憶と表示
- XIII. 災害ツーリズム
- XIV. 映画スクリーンく 2: 災害対応に携わるグループと各自目指
- XV. フィナーレ：将来の災害文化人類学

6. 成績評価方法：

出席、コメントとワークショップのレポートを総合して評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書はなし。読書リストを教室で適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

読書（論文とチャプター）を通読した上でメモを書き、講義ノートを作成する。次の講義に参加する前に、個人で、または他の学生と一緒に協力して復習する。

9. その他：

科目名：文化人類学研究演習 I / Cultural Anthropology(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：川口 幸大（准教授）

講義コード：LM11306， 科目ナンバリング：LHU-CUA604J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

文化人類学の視野と思考

2. Course Title (授業題目)：

Cultural Anthropology(Advanced Seminar)I

3. 授業の目的と概要：

文化人類学についての理論および民族誌的研究を精査することで、主要な概念と関心の動向を検討する。

4. 学習の到達目標：

文化人類学の研究動向を体系的に理解し、自身の問題関心を展開させる。

最終的には、自分の研究主題についての文献リストと主要文献のレビューを作成する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 研究動向の整理と検討
3. 研究動向の整理と検討
4. 文献講読
5. 研究動向の整理と検討
6. 研究動向の整理と検討
7. 研究動向の整理と検討
8. 文献講読
9. 研究動向の整理と検討
10. 研究動向の整理と検討
11. 研究動向の整理と検討
12. 文献講読
13. 研究動向の整理と検討
14. 研究動向の整理と検討
15. 最終報告

6. 成績評価方法：

発表[40%]、出席[20%]、最終レポート[40%]

7. 教科書および参考書：

授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回、課題に沿ったレジュメを作成する。

9. その他：

科目名：文化人類学研究演習Ⅱ／ Cultural Anthropology(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

学期：2学期, **単位数：**2

担当教員：川口 幸大 (准教授)

講義コード：LM21307, **科目ナンバリング：**LHU-CUA605J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

文化人類学の視野と思考

2. Course Title (授業題目)：

Cultural Anthropology(Advanced Seminar)Ⅱ

3. 授業の目的と概要：

前期に引き続き、文化人類学についての理論および民族誌的研究を精査することで主要な概念と関心の動向を検討する。自身の研究論文および修士論文の理論的背景と先行研究のレビュー欄の記述につなげられるようになることが目的である。

4. 学習の到達目標：

文化人類学の研究動向を体系的に理解し、自身の問題関心を展開させる。

最終的には、自身の修論もしくは研究論文における理論的背景および先行研究のレビューを完成させる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 研究動向の整理と検討
3. 研究動向の整理と検討
4. 文献講読
5. 研究動向の整理と検討
6. 研究動向の整理と検討
7. 研究動向の整理と検討
8. 文献講読
9. 研究動向の整理と検討
10. 研究動向の整理と検討
11. 研究動向の整理と検討
12. 文献講読
13. 研究動向の整理と検討
14. 研究動向の整理と検討
15. まとめ

6. 成績評価方法：

発表[40%]、出席[20%]、最終レポート[40%]

7. 教科書および参考書：

授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回、課題に沿ったレジュメを作成する。

9. その他：

科目名：文化人類学研究演習Ⅲ／ Cultural Anthropology(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：トニー・マガグナ（教授）

講義コード：LM24212， 科目ナンバリング：LHU-CUA606E， 使用言語：英語

1. 授業題目：

Native American Literature

2. Course Title (授業題目)：

Native American Literature

3. 授業の目的と概要：

This course will explore the lives and culture of Native Americans in the United States as it has been expressed through literature. We will begin with transcribed oral narratives and continue into the oratories, essays, and memoirs that capture the devastating conflicts of “contact” between Native tribes and European and U.S. populations. The predominance of the course, however, will focus on the contemporary voices of Native Americans writing today, following the “Native American Renaissance” of the 1960s and 1970s. Here, we will discover the ongoing efforts by many Native authors to both express and celebrate their inherited cultural traditions, as well as convey an identity and voice that is very much at home in the contemporary United States—and in the global community.

4. 学習の到達目標：

1. To understand the diverse histories and cultures of Native Americans, as represented in oral tradition;
2. To understand the consequences of European contact and U.S. conquest of Native American tribes;
3. To recognize the misrepresentations of Native Americans in popular culture;
4. To acknowledge and understand the ongoing traditions, diverse everyday lives, and contemporary contributions of Native Americans today.

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- I. Introductions & Opening Conversation
- II. Imagining Native America Today: Clichés & Controversies
- III. Origin Stories
- IV. Cautionary Tales & Trickster Tales
- V. European Contact
- VI. Conquest & Displacement
- VII. Re-Education & Assimilation: Boarding Schools
- VIII. The Native American Renaissance: Part I
- IX. The Native American Renaissance: Part II
- X. “Wisdom Sits in Places:” Landscape & Identity
- XI. Pop Culture Indians: Misrepresentations
- XII. The Next Generation: Overview of Contemporary Native Writers
- XIII. Louise Erdrich
- XIV. Sherman Alexie
- XV. Student Presentations: Native America Abroad

6. 成績評価方法：

Mini written responses (20%); Presentations (25%); Participation (25%); Final short essay (30%)

7. 教科書および参考書：

All required texts will be made available at the beginning of the course, either digitally or as handouts.

8. 授業時間外学習：

Students are required to read designated material in advance and to prepare for their active participation in the discussion. As assigned, students are required to prepare for their own presentations. Additionally, please note that all instruction, discussion, and office hours will be conducted in English. Most readings will also be in English, although occasional Japanese-language translations may be available.

9. その他：

科目名：文化人類学調査実習 I / Cultural Anthropology(Field Research) I

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時. 前期 水曜日 4 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：沼崎 一郎 (教授)

講義コード：LM13309, **科目ナンバリング：**LHU-CUA607J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

フィールドワークの理論と方法

2. Course Title (授業題目)：

Theory and Method of Fieldwork

3. 授業の目的と概要：

文化人類学的調査に必要な基礎技術を、修士論文研究の企画・実施を通して習得する。研究計画書および修士論文草稿の執筆と添削を通して、論文執筆力の向上を図る。毎回、各自発表要旨を用意し、それに基づいて発表を行い、全員で討議するという方式を採る。

4. 学習の到達目標：

- (1) 文化人類学的な調査技法の習得。
- (2) 論文執筆力の向上。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 授業方法の説明
2. 研究倫理 1 特に人類学的フィールドワークの倫理
3. 研究倫理 2 特に論文執筆における倫理
4. 研究方法 1 参与観察
5. 研究方法 2 インタビュー
6. 研究方法 3 文献調査
7. 研究方法 4 映像・音声データの収集
8. 分析方法 1 質的データの記述と分析
9. 分析方法 2 量的データの記述と分析
10. 研究テーマの探索
11. 研究テーマの決定
12. 研究トピックの探索
13. 研究トピックの決定
14. 研究計画の作成
15. 研究計画の発表

なお、この予定は、受講生のニーズに応じて変更する場合がある。

6. 成績評価方法：

平常点 (50%) と研究計画書 (50%) による。

7. 教科書および参考書：

適宜、教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

自身の研究に必要な文献収集と文献読解を行い、毎回授業前に進捗状況を報告するレジメを作成する。

9. その他：

授業内容および進度は、受講生の研究状況に応じて変更する場合がある。

科目名：文化人類学調査実習Ⅱ／ Cultural Anthropology(Field Research)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 3講時, 後期 水曜日 4講時

学期：2学期, **単位数：**2

担当教員：沼崎 一郎（教授）

講義コード：LM23310, **科目ナンバリング：**LHU-CUA608J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

フィールドワークの理論と方法

2. Course Title (授業題目)：

Theory and Method of Fieldwork

3. 授業の目的と概要：

前期に引き続き、文化人類学的調査に必要な基礎技術を、修士論文研究の企画・実施を通して習得する。研究計画書および修士論文草稿の執筆と添削を通して、論文執筆力の向上を図る。毎回、各自発表要旨を用意し、それに基づいて発表を行い、全員で討議するという方式を採る。

4. 学習の到達目標：

- (1) 文化人類学的な調査技法の習得。
- (2) 論文執筆力の向上。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 授業方法の説明
2. エミックとエティック 「事実」と「解釈」の多重性
3. 民族誌的記述 1 参与観察の記述
4. 民族誌的記述 2 インタビューの記述
5. 民族誌的記述 3 文献資料の利用
6. 民族誌的記述 4 映像・音声データの利用
7. 民族誌的考察 1 「事実」と「解釈」
8. 民族誌的考察 2 先行研究との「事実」の対比
9. 民族誌的考察 3 先行研究との「解釈」の対比
10. 民族誌的考察 4 「事実」と「解釈」の総合的考察
11. 論文執筆法 1 「事実」と「解釈」の書き分け
12. 論文執筆法 2 論文の文体
13. 論文執筆法 3 論文の形式
14. 論文執筆法 4 パラフレーズの活用法
15. 論文執筆法 5 直接引用の活用法

なお、この予定は、受講生のニーズに応じて変更する場合がある。

6. 成績評価方法：

平常点（50％）と民族誌的記述実践（50％）による。

7. 教科書および参考書：

適宜、教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

自身の研究に必要な文献収集と文献読解を行い、毎回授業前に進捗状況を報告するレジメを作成する。

9. その他：

前期の文化人類学調査実習Ⅰを必ず履修していること。
授業内容および進度は、受講生の研究状況に応じて変更する場合がある。